

令和4年度第2回 住んでこそ！東山プロジェクト協働プロジェクト 摘録

1 日時

令和4年10月25日（火） 午後1時30分～3時30分

2 場所

東山区役所2階 会議室（京都市東山区清水五丁目130番地の6）

3 内容

(1) 路地を活かした暮らしの模索

- ・東山区において新しい人を受け入れる住宅がないということは事実である。この課題の解決策として、路地の活用があげられる。東山区は路地が多いため、活用の可能性がある。
- ・行政は、路地の改修制度の見直しを行っている。
- ・今までは路地の大規模改修が難しかったが、若い人が住みやすくなるように、普通改修の範囲内で水回りの改修も行った事例がある。
- ・路地を単体で広げるのは難しく、限界がある。しかし、分譲マンションと違い、路地における家は個々に構造補強できるのがよい。マンションは再建築不可であり、将来のことを考えると、管理が難しい。マンションや路地に対する今までの価値観を変えていかなければならない。
- ・路地のコミュニティに入っていくのは怖い、ハードルが高いというイメージがあった。商店街の学生や若い社会人が「こういうところに住みたい」と路地への憧れは抱いているが、手の届かないイメージを持っている。
- ・路地再生に時間や手間がかかるということがよくわかった。

(2) 住むうえでの魅力の情報発信

- ・市民しんぶんに関しては、生活に密着した情報を載せる方がよい。住んで楽しそうを発信する必要はない。
- ・東山区の情報発信をすれば、問い合わせは多くくるだろうが、受け入れ体制は整っているのだろうか。
- ・東山区に住むには、つてがあると住宅探す頼りになる。
- ・空き家活用において、どのような人がどう暮らしているのか生活を可視化するとよいのではないか。事例を網羅的に情報公開するのもよいのではないか。
- ・皆が情報発信できるスキルを身につけて、皆でスキルをあげることも大切である。
- ・Instagramのハッシュタグ「#」を活用してはどうか。
- ・誰に向けて情報発信するかによってSNSや印刷物等の情報発信媒体を使い分けるとよいと思う。
- ・地域における情報網は大切である。

(3) ワンルームの活用

- ・事業者の意識の変革をできたらいいと考えている。活用意欲が少ないことが多いオーナーに動きたいと思ってもらうにはどうすればよいか。
- ・空き室の使用法の提案を誰ができるのかはわからないが、2部屋を1セットで借りてもらおう等活用方法の変化を提案できればよいと思う。
- ・複数の部屋の使用用途、改修方法を考えると学生の観点ではとても魅力的に感じるだろう。
- ・アイデアコンペ（学生）をするなどして、意見交換をしても面白いのではないかと。

(4) その他

- ・お試し居住の進捗報告
- ・買い物支援の政策